



平成22年度 秋田県総合教育センター

総合教育センターだより

第118号
2010年12月16日発行
〒010-0101 湯上市天王字追分西29-76
TEL 018-873-7200 (代表)
<http://www.akita-c.ed.jp>

今年度の研究成果を発表!! <第25回秋田県教育研究発表会>

今年度の特徴

●開催日 平成23年2月9日(水)～10日(木)
●会場 秋田県総合教育センター
詳細は総合教育センターホームページ第2次案内をご覧ください。多数の先生方の参加を心よりお待ちしております。

- 1 <新企画>新学習指導要領完全実施に向けた提言
- 2 教育専門監, ALT, 他県交流, 全校種の発表
- 3 先進的な研究(研究指定校, 受賞論文)の発表
- 4 著名な講師による講演2題

講演

2月9日・2月10日

<秋田県教育研究発表会講演>

10日 14:30～16:00
【演題】 「伝わる言葉のかけ方
～時々, “オニの心”が出る子どもにアプローチ～」
【講師】 名城大学 教職センター准教授
曾山和彦氏

<生涯学習課学校支援地域本部事業講演>

9日 10:10～11:30
【演題】 「学力は一年で伸びる～子どもの基礎学力を育むために, 今, 教師と保護者ができること～」
【講師】 立命館大学 教育開発推進機構教授
陰山英男氏

分野別研究発表

2月9日・2月10日

2日間, 全11会場において, 教科指導, 生徒指導, 教育課程, 社会教育等, 計81件の教育研究発表があります。

総合教育センターからの提言

2月9日 12:50～14:10

「新学習指導要領完全実施に向けて」
・「秋田スタンダード 学びの提言
—総則を具現化した学校づくり, 授業づくりを実践的に考える—」
・「学校における情報モラル指導の在り方」



総合教育センター研究発表

2月10日 9:40～10:30

- <研修班> 学校活性化を図る年齢層に応じた教員研修の在り方(2年次)
—若手教員の育成に資する研修プログラムの開発を通して—
- <支援班 教育メディアグループ>
学校における情報モラル指導の在り方
- <支援班 児童生徒支援グループ>
新「いじめ 学校自己診断表」を活用した校内指導体制の在り方
- <支援班 特別支援教育グループ>
秋田県における特別支援教育支援員の現状と活用の在り方



プラネタリウム教室と星のコンサート

星の世界☆ と 音楽♪ のコラボレーション

- 日時 平成22年12月27日(月) 10時～12時30分
- 受付 9時30分～
- 内容 ○プラネタリウム学習会(10時～, 11時50分～)
○星のコンサート(10時50分～)
○星座観察用具の製作(10時～12時)
- 対象 保育所・幼稚園の幼児(4歳以上)から
中学校までの幼児児童生徒とその保護者



申込みの予約はいりません。
当日会場においてください。詳しいことは、センターのホームページをご覧ください。



第25回 秋田県教育研究発表会

発達障害のある子どもと学級づくり・授業づくり

－特別支援教育の視点から通常学級の授業を見つめ直す－



「特別支援教育支援員」を活用するために
(文部科学省, 2007)

LD, ADHD, 高機能自閉症やアスペルガー症候群などの発達障害の特性のある子どもたちの多くは、小、中学校の通常の学級に在籍しています。こうした状況の中、「特別支援教育支援員」(市町村によっては「学校生活支援サポーター」等)を配置して、障害に応じた適切な指導・支援を行っている小・中学校が大変増えてきています。ただし、その役割や仕事の内容は多岐にわたっており、各校では試行錯誤をしながら取り組んでいる状況が多く見られます。

総合教育センターでは、支援員が配置されている学校へアンケート調査を行い、また、直接学校を訪問して特別支援教育支援員の効果的な活用の在り方を探っているところです。この成果は、2月の研究発表会で報告する予定です。

発達障害のある子どもたちは、たとえば次のような学習上や生活上の困難さをもっています。

- ・目で見ただけでは、問題の内容や意味が分からない。
- ・耳で聞いただけでは、指示の内容や意味が分からない。



このような子どもたちに適切な指導や支援が十分にできているでしょうか。

授業の中で、こうした困難さをもった子どもたちにとって「わかりやすい」指導や支援がなされると、他の子どもたちにとっても「分かる」「楽しい」授業になるのではないのでしょうか。「授業のユニバーサル化」ということ言われています。特別支援教育の視点には、通常の学級の授業づくり、学級づくりのためのヒントが数多く含まれているような気がします。先日、国立特別支援教育総合研究所の研究報告「小・中学校等における発達障害のある子どもへの教科教育等の支援に関する研究」が刊行され、ホームページ上でも公開されました。この中には、子どもの学習上の困難さの状態に応じた具体的な支援内容や支援方法がたくさん例示されています。また、教師が授業を振り返るための点検シートやチェックシートなども載っています。

各学校では特別支援教育コーディネーターが中心になって、校内研修などを計画していると思いますが、この研究報告をぜひ参考してみてください。



小・中学校等における発達障害のある子どもへの教科教育等の支援に関する研究
(特別支援教育総合研究所, 2010)

「どこでもライブサポート」を活用してみませんか？



どこでもライブサポート

学校と学校がつながります。
学校と教育センターがつながります。



横手養護学校と
稲川養護学校で
交流しました。



能代北高校とオーストラリアの高校がつながりました。



↑ 北羽新報社提供



指導案作成等のご相談にも応じます。

お問い合わせ先 018-873-7204
どこでもライブサポート担当(大石)
<http://www.akita-c.ed.jp/~cil/>